

市民みんなが参加できる仕組みをつくり、 継続して取り組めるようにしたい

3 市民参加とその継続

(1) 従来の参加型から協働型へ

これまでは、私たちがまちづくりに参加する場面は、行政が用意した広聴会などで意見を述べることでした。しかし、これからは、市民と行政が互いに議論し、ひとつの目標に向けて合意形成をした上で、それぞれが役割分担をし、協働で目標に向かっていくことが必要です。

(2) 市民参加の仕組みづくり

市民の参加を図るには、その仕組みをつくり、参加の場を設け、参加を促進する仕掛けが必要です。それにより、計画づくりにも、実践の場にも、多くの市民の参加が望めます。参加の仕組みには、さまざまな形があります。既存の自治会であったり、多様なライフスタイルの中で形成されているコミュニティの活用も考えられます。また、限られた地域ばかりではなく、市全体を視野に入れた市民活動の団体やNPOなどの組織への参加も重要な市民参加の仕組みといえます。

市民の参加の場も、市民センターなどの行政的な場だけでなく、楽しく、気軽に出席できる所が望ましいと思います。そして、参加の促進を図るには、参加した結果が計画に反映されたり、社会的に評価されることが大切です。

(3) 参加の継続を

このような、「合意形成の仕組み」、「参加の場の提供」、「参加の促進」を行うとともに、意志決定のシステムや合意形成のプロセスを社会化することによって、参加の継続を図るようにしたいと思います。そして、まず、「学習」した上で、「発意」し、「実践」し、その結果を「評価」することから、また新たな「学習」をし、それを繰り返すことで、継続的なまちづくりを進めていきたいと思っています。

